厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
令和２年度分担研究報告書

新型コロナウイルス感染症が医療機関の損益に与えた影響の分析
：某医療機関グループにおける診療科別・入院外来別の視点から

研究分担者　荒井 耕　　一橋大学大学院経営管理研究科
研究協力者　田村 桂一　　田村公認会計士事務所

研究要旨

新型コロナウイルス感染症は、受診控えや感染防御準備のための手術延期などにより、病院経営に悪影響を及ぼしていることは報告されているが、診療科別の分析は行われておらず、不明な部分が多い。診療科により患者行動や病院側の対応に違いがあるため、診療科別に病院の損益に与えた影響を分析することは重要である。そこで、本研究は診療科別に病院の損益に与えた影響を分析することを目的とする。

某医療機関グループから提供された情報のうち、50 床以上の病床を有する病院、計 29 病院を対象とした。29 病院のうち 22 病院が新型コロナ患者対応実績有り、7 病院が対応実績無しであった。病院によって異なる診療科は共通の診療科区分に変換し、10 病院以上に存在しない診療科や共通の診療科とみなせない診療科については対象外とした。分析対象期間は令和 2 年 4～9 月とし、平成 31 年 4 月～令和元年 9 月と比較した。

まず収入をみると、入院では、小児科、心臓外科、皮膚科、耳鼻咽喉科は、2 割以上の減少となっているのに対して、外来では、皮膚科、耳鼻咽喉科が 2 割程度の減少となっており、小児科、心臓外科の大幅な減少は入院に限られていた。眼科、歯科も、入院の減少がそれぞれ約 19%、約 17%と比較的大きいが、外来では約 6%、約 4%と小さく、外来の方が影響は小さかった。逆に、循環器科は、入院では減少が約 1%とあまり無かったものの、外来では約 13%の減少となっていた。同じような傾向は、脳神経外科でもあり、入院では約 7%の減少だが、外来では約 17%の減少となっていた。

また四半期別にみると、入院では、小児科、皮膚科は、第 1 四半期も第 2 四半期も、2.5~3 割の減少のまま推移した一方、心臓外科、耳鼻咽喉科、眼科、歯科は、第 2 四半期には減少が回復してきており、延期されていた手術を実施するようになった結果と推測された。外来では、いずれの診療科でも第 2 四半期にかけて減少が回復しており、2 割程度の減少があった小児科、脳神経外科、整形外科でも、1 割以下の減少まで回復していた。しかし、第 1 四半期で 3 割近くまで減少した皮膚科と耳鼻咽喉科は、第 2 四半期でも 1 割以上の減少が続いており、受診控えが長引いている状況が示唆された。

次に損益状況をみると、まず入院・外来合計ベースでは、収支比率（単純平均）は小児科、皮膚科は 30%ポイントを超えて、耳鼻咽喉科は 20%ポイントを超えて、歯科は約 20%ポイントと大きな減少となっているが、泌尿器科は約 7%ポイントの減少と相対的に小さい。第 1 四半期では、皮膚科、耳鼻咽喉科、歯科は 40%ポイントを超えて、小児科は約 40%

ポイントと大きく減少し、小児科、皮膚科は第 2 四半期でも 20%ポイントを超える減少のままである。

入院では、小児科、皮膚科、歯科が 20%ポイントを超えて大きく減少している。第 1 四半期では、小児科、耳鼻咽喉科、歯科が 30%ポイントを超えて、心臓外科、皮膚科が 20%ポイントを超えて減少し、小児科、皮膚科は第 2 四半期でも 20%ポイントを超える減少のままである。

一方、外来では、皮膚科は約 44%ポイント、小児科、心臓外科、耳鼻咽喉科は 30%ポイントを超えて、脳神経外科は約 26%ポイントと、大きく減少しているが、外科の減少は約 8%ポイントと相対的に小さい。第 1 四半期では、小児科、心臓外科、皮膚科が 60%ポイントを超えて、耳鼻咽喉科が約 53%ポイント、歯科が約 41%ポイント、脳神経外科、整形外科が 30%ポイントを超えて減少している。第 2 四半期でも、皮膚科、耳鼻咽喉科は 20%ポイントを超えて、小児科、心臓外科、脳神経外科は 10%ポイントを超えて、眼科は約 10%ポイント減少している。こうしたなか、第 2 四半期には、歯科は前期比プラスに転じ、外科も 0.3%ポイント未満のマイナスまで回復している点は、他の診療科と傾向が異なる。

診療科別に収入と損益の変化状況を分析した結果、収入と損益の減少の程度には相違が見られることも判明した。このことは、収入ベースだけでなく損益ベースでも診療科別の分析をすることの重要性を強く示唆している。ただし今回の研究では、診療科別の変動費率を把握して、収入の増減率に対する損益の増減率を診療科別に分析することまではできていない。収入の増減による損益増減への影響が強い診療科と弱い診療科を把握することは、今後の研究課題である。

A．研究目的

新型コロナウイルス感染症は、受診控えや感染防御準備のための手術延期などにより、病院経営に悪影響を及ぼしていることは報告されているが、診療科別の分析は行われておらず、不明な部分が多い。診療科により患者行動や病院側の対応に違いがあるため、診療科別に病院の損益に与えた影響を分析することは重要である。そこで、本研究は診療科別に病院の損益に与えた影響を分析することを目的とする。

B．研究方法

① 病院数

某医療機関グループから提供された情報のうち、50 床未満の病床の病院については、その他の病院と規模が大きく異なるため除外し、50 床以上の病床を有する病院(29 病院)を対象とした。29 病院のうち 22 病院が対応実績有り(COVID-19 患者もしくは疑似症患者を 1 人以上受け入れた施設)、7 病院が対応実績無し(COVID-19 患者もしくは疑似症患者を受け入れなかった施設)であった。

全病院は平均の病床数が 343 床(標準偏差 166)、対応実績有りの病院群は平均の病床数が 379 床(標準偏差 171)、対応実績無しの病院群は平均の病床数が 233 床(標準偏差 89)であり、対応実績有りの病院群の方が病床規模の大きな病院が多く含まれている。

② 診療区分

某医療機関グループでは、病院により異なる診療科名が標榜されており、共通化されてはいない。このため、グループ内においても

病院間での診療科単位での分析は容易ではない。しかしながら、グループ内において定められた共通の診療科区分が存在し、病院によって異なる診療科をこの共通の診療科区分に変換していることから、この共通の診療科区分を用いることとする(表 1)。

これらの診療科については、病院によって存在しない診療科もあり、特定の診療科の数が非常に少ない場合もある。

今回対象となった 29 病院では、10 病院以上に存在する診療科を分析対象としたところ、「精神科」は 10 病院に満たなかったため、分析の対象外とした。

「その他」の区分には、放射線科や、健診センター、訪問看護ステーション、クリニックの分院など、上記の診療科に含められない診療科等が含められており、共通の診療科と見做せないため、分析の対象外とした。

③　対象期間

分析対象の期間は令和 2 年 4～令和 2 年 9 月とする。比較するために平成 31 年 4 月～令和元年 9 月の診療科別損益情報を併せて提供してもらい、この 2 期間の増減を比較分析する。

④　収入、費用の内訳

某医療機関グループの病院では、診療科別に損益情報を作成している。収入については、患者への診療活動により各診療科で直接発生したことが明らかな「直接収入」、診療技術部門に配分された収入のうち各診療科に割り振られた「技術収入」、診療活動以外の駐車場や売店などから得られる「施設収入」、診断書料や一部の補助金などの「雑収入」の４つに分類されている。

「施設収入」、「雑収入」は、患者への診療活動により直接発生する収入ではないが、それぞれの病院では各診療科に配賦計算を行っているため、「施設収入」、「雑収入」についても、各診療科別の数値が存在する。

費用については、患者への診療活動により各診療科で直接発生したことが明らかな人件費、材料費、その他経費が含まれる「直接費用」、補助部門や診療技術部門に配分された費用のうち各診療科に割り振られた「配賦費用」の 2 つに分類される。

⑤　分析項目

本研究では以下の通りに「収入計」、「収支」、「収支比率」を計算する。

「収入計」＝直接収入＋技術収入＋施設収入

「収支」＝収入計－直接費用－配賦費用

「収支比率」＝収支÷収入計

なお、「収入計」には「雑収入」を含めるべきとの意見もあるが、某医療機関グループでは、「雑収入」に補助金を含めている病院と含めていない病院があり、「雑収入」を含めると経常的な病院の収入を測定することが出来ないため、一律に「雑収入」を除外することとした。

⑥　留意事項

1.サンプルが少ない場合の取り扱い

分析においては、全 29 病院、対応実績有りの病院群 22 病院と、対応実績無しの病院群 7 病院の平均値を算出しているが、対応実績無しの病院群では、診療科によっては病院数が 3 を下回ることがある。この場合は、一部の病院の特性が強く出る恐れがあるため、病院数が 3 を下回る場合には、その数値は検討しないこととする。

また、サンプルが 3 以上でも、対応実績無し病院群では最大 7 病院しかないため、平均値は対応実績無し病院群を適切に代表しているとは言えない可能性がある。

2.加重平均と単純平均

平均値の算定に当たっては、加重平均と単純平均を算出している。加重平均は、診療科規模の大きな病院の特性による影響を強く受けるため、診療科規模の大きな病院が含まれているときは、サンプルを適切に代表しない恐れがある。一方で、単純平均は外れ値が存在する場合には、この外れ値により大きく影響を受け、診療科の傾向を適切に表さない恐れがある。

このため、このような外れ値については、単純平均の算出においては除外することとしている（スミルノフグラブズ検定の両側検定で有意確率 5%水準)。一方、加重平均の算出においては、除外をせずに算出を行っている。

3.入院と外来の数値が区分されていない病院データの取り扱い

某医療機関グループから提供されたデータでは、一部の病院のデータにおいて、入院と外来の数値が分離されていないものがあった。この病院のデータについては、入院と外来の分析には利用せず、入院と外来の合計値の分析にのみ利用している。

C．研究結果

（1）入院・外来の合計値の分析

① 半年ベースの状況

入院と外来の合計値に関する令和 2 年 4~9 月の収入計について前年同期と比べた変化率を示す(表 2)。これを見ると、令和 2 年 4~9 月の収入計は、前年同期よりも全体的に減少していることが分かる。

まず加重平均について全病院ベースで見ると、病院全体では約 9%の減少となっている。診療科別では、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉科は 20%を超えて大きく減少しているが、泌尿器科は約 1%しか減少していない。

対応実績別で比較すると、小児科は対応実績有りの病院群が対応実績無しの病院群よりも約 11%大きく減少している。泌尿器科は対応実績無しの病院群では約 20%減少しているにもかかわらず、対応実績有りの病院群では、約 2%増加する結果となっている。耳鼻咽喉科は対応実績無しの病院群が対応実績有りの病院群よりも約 18%大きく減少している。

次に単純平均について全病院ベースで見ると、病院全体では約 11%の減少となっている。診療科別では、小児科、心臓外科、皮膚科、耳鼻咽喉科は 20%を超えて大きく減少しているが、泌尿器科は約 5%の増加となっている。

対応実績別で比較すると、泌尿器科は対応実績無しの病院群では約 9%減少しているにもかかわらず、対応実績有りの病院群では約 9%増加する結果となっている。耳鼻咽喉科は対応実績無しの病院群が対応実績有りの病院群と比べて約 19%大きく減少している。眼科は対応実績有りの病院群が対応実績無しの病院群よりも約 11%大きく減少している。

入院と外来の合計値に関する令和 2 年 4~9 月の収支比率について前年同期と比べた差異を示す(表 3)。これを見ると、令和 2 年 4~9 月の収支比率は、前年同期と比べた結果、全体的に減少していることが分かる。

まず加重平均を全病院ベースで見ると、病院全体では約 9%ポイントの減少となっている。診療科別では、小児科、皮膚科は 20%ポイントを超えて大きく減少しているが、循環器科、泌尿器科、産婦人科は減少が約 5%ポイントと抑えられている。

対応実績別で比較すると、泌尿器科は対応実績無しの病院群が対応実績有りの病院群

よりも約 13%ポイント大きく減少している。

次に単純平均を全病院ベースで見ると、病院全体では約 11%ポイントの減少となっている。診療科別では、小児科、皮膚科は 30%ポイントを超えて、耳鼻咽喉科は 20%ポイントを超えて、歯科は約 20%ポイントと大きな減少となっているが、泌尿器科は約 7%ポイントの減少と小さい。

対応実績別で比較すると、小児科と耳鼻咽喉科は、対応実績無しの病院群が対応実績有りの病院群よりも、約 17%ポイント大きく減少している。

② 四半期ベースの状況

入院と外来の合計値に関する令和 2 年 4~6 月(第 1 四半期)と 7~9 月(第 2 四半期)の収入計について前年同期と比べた変化率を示す(表 4)。これを見ると、多くの診療科で令和 2 年第 1 四半期は収入計が大きく減少しているが、令和 2 年第 2 四半期には減少傾向ではあるものの、その減少幅が回復している。この傾向は、対応実績有りの病院群でも、対応実績無しの病院群でも同様になっている。

まず加重平均を全病院ベースで見ると、病院全体では第 1 四半期が約 13%、第 2 四半期では約 6%の減少となっている。診療科別では第 1 四半期で、耳鼻咽喉科は約 32%、小児科、皮膚科、眼科、歯科は 20%を超えて減少している。このうち小児科、皮膚科、耳鼻咽喉科は第 2 四半期でも依然として 10%を超えるマイナスである。

全体の傾向と異なる状況にあるのは、以下の診療科である。外科については、第 1 四半期も第 2 四半期も 6%前後の減少割合になっており、継続的に小さく減少が続いている。この傾向は、対応実績有りの病院群でも、対応実績無しの病院群でも同様になっている。整形外科では、対応実績無し病院群においては、第 2 四半期はマイナスではあるものの、その値は 1 %を下回っており、前年からの減少はほとんど解消されている。泌尿器科については、全病院では第 1 四半期はほとんど減少していないが、第 2 四半期で 2%のマイナスと減少が拡大している。対応実績別では、増減の動きが大きく分かれ、対応実績有り病院群では第 1 四半期も第 2 四半期も数%のプラスとなっているが、対応実績無し病院群では第 1 四半期が約 14%のマイナスだが、第 2 四半期では約 26%のマイナスと減少が大きくなっている。眼科では、対応実績無し病院群では、第 1 四半期よりも第 2 四半期の方が、減少の幅が大きくなっている。産婦人科（対応実績有り病院群を除く）と歯科では、第 2 四半期でプラスに転じている。

次に単純平均を全病院ベースで見ると、病院全体では第 1 四半期が約 14%、第 2 四半期では約 8%の減少となっている。診療科別では第 1 四半期で、耳鼻咽喉科が約 35%、小児科、心臓外科、皮膚科、歯科が 20%を超えて、眼科が約 20%と大きく減少している。このうち、小児科、皮膚科は第 2 四半期でも 20%を超える減少のままである。

全体の傾向と異なる状況にあるのは、以下の診療科である。外科では、第 1 四半期も第 2 四半期も 7～8%程度のマイナスになっており、同程度の減少が続いている。泌尿器科では、全病院でも対応実績有り病院群でも、第 1 四半期も第 2 四半期もプラスであり、第 1 四半期よりも第 2 四半期の方が、増加が大きくなっている。整形外科（対応実績無し病院群）と歯科では、第 2 四半期でプラスに転じている。

表 5 では、入院と外来の合計値に関する令和 2 年 4~6 月(第 1 四半期)と 7~9 月(第 2 四半期)の収支比率について前年同期と比べた

差異を示している。これを見ると、多くの診療科で令和 2 年第 1 四半期は収支比率が大きく減少しているが、令和 2 年第 2 四半期には減少傾向ではあるものの、その減少幅が回復している。この傾向は、対応実績有りの病院群でも、対応実績無しの病院群でも同様になっている。

まず加重平均を全病院ベースで見ると、病院全体では第 1 四半期が約 14%ポイント、第 2 四半期では約 4%ポイントの減少となっている。診療科別では第 1 四半期で、小児科、耳鼻咽喉科、歯科は 30%ポイントを超える、皮膚科は約 28%ポイントの減少となっている。このうち小児科、皮膚科は第 2 四半期でも依然として 10%ポイントを超えるマイナスである。

全体の傾向と異なる状況にあるのは、以下の診療科である。耳鼻咽喉科では、対応実績無しの病院群では第 1 四半期が約 69%ポイントのマイナスと非常に大きかったにもかかわらず、第 2 四半期では約 5%ポイントのマイナスまで大きく回復している。眼科では、対応実績無し病院群では、第 1 四半期よりも第 2 四半期の方が、減少の幅が大きくなっている。産婦人科と歯科（対応実績有り病院群）では、第 2 四半期でプラスに転じている。

次に単純平均を全病院ベースで見ると、病院全体では第 1 四半期が約 16%ポイント、第 2 四半期では約 7%ポイントの減少となっている。診療科別では第 1 四半期で、皮膚科、耳鼻咽喉科、歯科は 40%ポイントを超えて、小児科は約 40%ポイントと大きく減少している。このうち、小児科、皮膚科は第 2 四半期でも 20%ポイントを超える減少のままである。

全体の傾向と異なる状況にあるのは、以下の診療科である。耳鼻咽喉科では、対応実績無しの病院群では第 1 四半期が約 74%ポイントのマイナスと非常に大きかったにもかかわらず、第 2 四半期では約 26%ポイントのマイナスまで大きく回復している。眼科では、対応実績無しの病院群で第 1 四半期も第 2 四半期も減少の幅がほとんど変わっていない。泌尿器科では、対応実績無しの病院群では、第 2 四半期において、約 1%ポイントのプラスに転じている。

（2）入院の分析

① 半年ベースの状況

表 6 では、入院に関する令和 2 年 4~9 月の収入計について前年同期と比べた変化率を示している。これを見ると、泌尿器科を除いてすべて収入計が減少する結果となっている。

まず加重平均を全病院ベースで見ると、病院全体で約 9%の減少となっている。診療科別では、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科は 20%を超えて大きく減少しているが、泌尿器科は約 8%の増加となっている。

対応実績別で分けると、小児科は対応実績有り病院群が対応実績無しの病院群よりも約 17%大きく減少している。泌尿器科は対応実績有りの病院群が約 15%のプラスとなっており、コロナ禍において大きく増加している一方で、対応実績無しの病院群では、約 29%のマイナスとなっており大きく減少している。耳鼻咽喉科は、対応実績無しの病院群が対応実績有りの病院群よりも約 26%大きく減少している。眼科は対応実績有り病院群が対応実績無しの病院群よりも約 11%大きく減少している。

次に単純平均を全病院ベースで見ると、病院全体で約 11%の減少となっている。診療科別では、小児科、心臓外科、皮膚科、耳鼻咽喉科は 20%を超えて大きく減少しているが、循環器科は約 1%の減少、泌尿器科は約 5%

の増加となっている。

対応実績別で分けると、循環器科は対応実績有り病院群で約 3%のプラスに対して、対応実績無し病院群では約 15%のマイナスになっている。泌尿器科は対応実績有り病院群で約 11%のプラスに対して、対応実績無し病院群では約 22%のマイナスになっている。耳鼻咽喉科は、対応実績無しの病院群が対応実績有りの病院群よりも約 34%大きく減少している。眼科は対応実績無し病院群で約 6%のプラスに対して、対応実績有り病院群ではマイナス約 25%と大きく減少している。

表 7 では、入院に関する令和 2 年 4~9 月の収支比率について前年同期と比べた差異を示している。これを見ると、加重平均の対応実績有り病院群の泌尿器科を除いてすべて収支比率が減少する結果となっている。

まず加重平均を全病院ベースで見ると、病院全体で約 7 %ポイントの減少となっている。診療科別では、小児科が約 25%ポイントの大きな減少となっている一方で、循環器科と産婦人科は 3%ポイント前後、泌尿器科は約 1%ポイントの小さな減少となっている。

対応実績別で分けると、泌尿器科は対応実績有り病院群では約 2%ポイントのプラスに対して、対応実績無し病院群では約 26%ポイントのマイナスになっている。耳鼻咽喉科は、対応実績無し病院群が対応実績有り病院群よりも約 13%ポイント大きく減少している。

次に単純平均を全病院ベースで見ると、全病院では約 10%ポイントの減少となっている。診療科別では、小児科、皮膚科、歯科が 20%ポイントを超えて大きく減少している。

対応実績別で分けると、泌尿器科は対応実績有り病院群が対応実績無し病院群よりも約 20%ポイント大きく減少している。耳鼻咽喉科は、対応実績無し病院群が対応実績有り病院群よりも約 10%ポイント大きく減少している。

② 四半期ベースの状況

表 8 では、入院に関する令和 2 年 4~6 月(第 1 四半期)と 7~9 月(第 2 四半期)の収入計について前年同期と比べた変化率を示している。これを見ると、多くの診療科で令和 2 年第 1 四半期は収入計が大きく減少しているが、令和 2 年第 2 四半期には減少傾向ではあるものの、その減少幅が回復している。この傾向は、対応実績有りの病院群でも、対応実績無しの病院群でも同様になっている。

まず加重平均を全病院ベースで見ると、病院全体では第 1 四半期が約 12%、第 2 四半期では約 6%の減少となっている。診療科別では第 1 四半期で、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、歯科は 30%を超えて、小児科、心臓外科は 20%を超えて減少している。このうち小児科、皮膚科は第 2 四半期でも 20%を超えて、心臓外科、耳鼻咽喉科、眼科は第 2 四半期でも 10%を超えて依然として減少している。

全体の傾向と異なる状況にあるのは、以下の診療科である。外科では、第 1 四半期も第 2 四半期も同程度の 7%前後のマイナスになっており、むしろ第 2 四半期の減少の方がわずかながら大きい。この傾向は、対応実績有りの病院群でも、対応実績無しの病院群でも同様になっている。泌尿器科については、全病院でも対応実績有り病院群でもプラスとなっており、第 2 四半期よりも第 1 四半期の方が、大きく増加している。一方で、対応実績無し病院群では第 1 四半期が約 19%減少し、第 2 四半期は約 37%減少しており、第 1 四半期よりも第 2 四半期の方が、約 18%も減少幅が大きくなっている。眼科について

は、対応実績無し病院群では、第 1 四半期が約 2%の減少であったが、第 2 四半期が約 17%の減少であり、減少幅が大きくなっている。整形外科（対応実績無し病院群）、産婦人科、歯科（対応実績有り病院群）では、第 2 四半期でプラスに転じている。

次に単純平均を全病院ベースで見ると、病院全体では第 1 四半期が約 14%、第 2 四半期では約 9%の減少となっている。診療科別では第 1 四半期で、心臓外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、歯科は 30%を超えて、小児科、眼科は 20%を超えて減少している。このうち、小児科、皮膚科は第 2 四半期でも 20%を超えて、心臓外科、耳鼻咽喉科は第 2 四半期でも 10%を超えて依然として減少している。

全体の傾向と異なる状況にあるのは、以下の診療科である。循環器科では、対応実績有り病院では第 1 四半期でも約 1%のプラスとなっているが、第 2 四半期では約 6%のプラスと、増加傾向にある。このため、全病院でも第 2 四半期は約 2%のプラスとなっている。外科については、全病院、第 1 四半期も 8%前後の減少となっており、大きな差は無い。しかし、対応実績無し病院群では、約 7%減少幅が大きくなっている。泌尿器科については、全病院でも対応実績有り病院群でも、第 1 四半期も第 2 四半期もプラスであり、第 2 四半期よりも第 1 四半期の方が、増加が大きくなっている。対応実績無し病院群では第 1 四半期も第 2 四半期も 20%近いマイナスである。眼科については、対応実績無し病院群では、第 1 四半期が約 1%のプラスであったが、第 2 四半期が約 23%のプラスとなっている。なお、加重平均における変化率の推移と反対になっているが、この原因は、サンプル数が少なく、収入規模の小さな病院の変化率がマイナス、収入規模の大きな病院の変化率がプラスと異なっていたためである。整形外科（対応実績無し病院群）、歯科（対応実績有り病院群）では、第 2 四半期でプラスに転じている。

表 9 では、入院に関する令和 2 年 4~6 月(第 1 四半期)と 7~9 月(第 2 四半期)の収支比率について前年同期と比べた差異を示している。これを見ると、多くの診療科で令和 2 年第 1 四半期は収支比率が大きく減少しているが、令和 2 年第 2 四半期には減少傾向ではあるものの、その減少幅が回復している。この傾向は、対応実績有りの病院群でも、対応実績無しの病院群でも同様になっている。

まず加重平均を全病院ベースで見ると、病院全体では第 1 四半期が約 12%ポイント、第 2 四半期では約 3%ポイントの減少となっている。診療科別では第 1 四半期において、小児科、耳鼻咽喉科、歯科は、30%ポイントを超える大きな減少となっている。このうち小児科は、第 2 四半期でも約 15%ポイントと大きく減少している。

全体の傾向と異なる状況にあるのは、以下の診療科である。循環器科の対応実績無し病院群では、第 1 四半期でも第 2 四半期でも約 5%ポイントの減少のままで変動がない。泌尿器科については、全病院、対応実績有り病院群では、第 2 四半期でプラスに転じているが、対応実績無し病院群では、第 1 四半期も第 2 四半期もマイナス 26%前後にとどまっている。耳鼻咽喉科の対応実績無しの病院群では第 1 四半期のマイナスが約 89%ポイントと非常に大きかったにもかかわらず、第 2 四半期ではマイナス約 4%ポイントまで大きく回復している。眼科については、対応実績無し病院群では、第 1 四半期よりも第 2 四半期の方が、約 19%ポイント減少が大きくなっている。産婦人科、歯科（対応実績有り病院群）では、第 2 四半期でプラスに転じている。

次に単純平均を全病院ベースで見ると、病院全体では第 1 四半期が約 13%ポイント、第 2 四半期では約 7%ポイントの減少となっている。診療科別では第 1 四半期で、小児科、耳鼻咽喉科、歯科が 30%ポイントを超えて、心臓外科、皮膚科が 20%ポイントを超えて減少している。このうち、小児科、皮膚科は第 2 四半期でも 20%ポイントを超える減少のままである。

全体の傾向と異なる状況にあるのは、以下の診療科である。循環器科の対応実績有り病院群では、約 10%ポイント前後のマイナスのままで、あまり減少が回復していない。皮膚科では、約 25%ポイントから約 26%ポイントに微減しており、減少の様子が無い。眼科の対応実績無しの病院群では、第 1 四半期が約 2%ポイントのプラスであったが、第 2 四半期では約 10%ポイントのマイナスになっており、減少が拡大している。

（3）外来の分析

① 半年ベースの状況

表 10 では、外来に関する令和 2 年 4~9 月の収入計について前年同期と比べた変化率を示している。これを見ると、加重平均の対応実績有り病院群の循環器科を除いてすべて収入計が減少する結果となっている。

まず加重平均を全病院ベースで見ると、病院全体で約 9%の減少となっている。診療科別では、耳鼻咽喉科がマイナス 19%と大きく減少しているが、循環器科、外科の減少は数パーセントと小さい。

対応実績別で分けると、循環器科は対応実績有り病院群が約 3%のプラスに対して、対応実績無しの病院群が約 16%のマイナスと、大きく異なる。

次に単純平均を全病院ベースで見ると、病院全体で約 11%の減少となっている。診療科別では、皮膚科、耳鼻咽喉科は 20%を超えて大きく減少しているが、外科、歯科は約 4%と減少幅が小さい。

対応実績別で分けると、小児科は対応実績有り病院群よりも対応実績無し病院群が約 11%大きく減少している。

表 11 では、外来に関する令和 2 年 4~9 月の収支比率について前年同期と比べた差異を示している。これを見ると、全てで収支比率が減少する結果となっている。

まず加重平均を全病院ベースで見ると、病院全体で約 13%ポイントの減少となっている。診療科別では、小児科、脳神経外科、皮膚科、耳鼻咽喉科が 20%ポイントを超えて、心臓外科が約 20%ポイントと大きな減少となっている。

対応実績別で分けると、耳鼻咽喉科は対応実績有り病院群が対応実績無し病院群よりも約 11%ポイント大きく減少している。眼科は、対応実績無し病院群が対応実績有り病院群よりも、約 12%ポイント大きく減少している。

次に単純平均を全病院ベースで見ると、病院全体では約 17%ポイントの減少となっているが、皮膚科は約 44%ポイント、小児科、心臓外科、耳鼻咽喉科は 30%ポイントを超えて、脳神経外科は約 26%ポイントと、大きく減少しているが、外科の減少は約 8%ポイントと小さい。

対応実績別で分けると、小児科は対応実績無し病院群が対応実績有り病院群よりも約 19%ポイント大きく減少している。

② 四半期ベースの状況

表 12 では、外来に関する令和 2 年 4~6 月(第 1 四半期)と 7~9 月(第 2 四半期)の収入計について前年同期と比べた変化率を示している。これを見ると、多くの診療科で令和 2

年第 1 四半期は収入計が大きく減少しているが、令和 2 年第 2 四半期には減少傾向ではあるものの、その減少幅が回復している。この傾向は、対応実績有りの病院群でも、対応実績無しの病院群でも同様になっている。

まず加重平均を全病院ベースで見ると、病院全体では第 1 四半期が約 14%、第 2 四半期では約 4%の減少となっている。診療科別では第 1 四半期で、整形外科、皮膚科、耳鼻咽喉科は 20%を超えて、小児科は約 20%と大きく減少している。このうち小児科、耳鼻咽喉科は第 2 四半期でも依然として 10%を超えて、皮膚科は約 10%減少している。

全体の傾向と異なる状況にあるのは、以下の診療科である。泌尿器科と産婦人科では、対応実績無し病院群において、第 1 四半期よりも第 2 四半期の方が大きく減少している。循環器科（対応実績無し病院群を除く）、外科、心臓外科、歯科では、第 2 四半期にはプラスに転じている。

次に単純平均を全病院ベースで見ると、病院全体では第 1 四半期が約 16%、第 2 四半期では約 6%の減少となっている。診療科別では第 1 四半期で、循環器科、脳神経外科、整形外科、皮膚科、耳鼻咽喉科が 20%を超えて減少している。このうち皮膚科、耳鼻咽喉科は第 2 四半期でも依然として 10%を超えて、脳神経外科は約 10%減少している。

全体の傾向と異なる状況にあるのは、以下の診療科である。産婦人科については、対応実績無し病院群において、第 1 四半期と第 2 四半期でほとんど差が無い。外科（対応実績有り病院群を除く）、心臓外科、泌尿器科（対応実績無し病院群を除く）、歯科では、第 2 四半期にはプラスに転じている。

表 13 では、外来に関する令和 2 年 4~6 月(第 1 四半期)と 7~9 月(第 2 四半期)の収支比率について前年同期と比べた差異を示している。これを見ると、多くの診療科で令和 2 年第 1 四半期は収支比率が大きく減少しているが、令和 2 年第 2 四半期には減少傾向ではあるものの、その減少幅が回復している。この傾向は、対応実績有りの病院群でも、対応実績無しの病院群でも同様になっている。

まず加重平均を全病院ベースで見ると、病院全体では第 1 四半期が約 22%ポイント、第 2 四半期では約 5%ポイントの減少となっている。診療科別では第 1 四半期で、心臓外科が約 51%ポイント、耳鼻咽喉科が約 41%ポイント、小児科、脳神経外科、皮膚科、歯科が 30%ポイントを超えて、整形外科、産婦人科が 20%ポイントを超えて、大きな減少となっている。このうち小児科、脳神経外科、皮膚科、耳鼻咽喉科が第 2 四半期でも依然として 10%ポイントを超えて減少している。

全体の傾向と異なる状況にあるのは、以下の診療科である。外科（対応実績無し病院群を除く）、心臓外科、歯科については、第 2 四半期でプラスに転じている。特に心臓外科は、第 1 四半期で 50%ポイントを超えて大きく減少していたにもかかわらず、第 2 四半期でプラスに転じている

次に単純平均を全病院ベースで見ると、病院全体では第 1 四半期が約 28%ポイント、第 2 四半期では約 9%ポイントの減少となっている。診療科別では第 1 四半期で、小児科、心臓外科、皮膚科が 60%ポイントを超えて、耳鼻咽喉科が約 53%ポイント、歯科が約 41%ポイント、脳神経外科、整形外科が 30%ポイントを超えて減少している。このうち、皮膚科、耳鼻咽喉科は第 2 四半期でも 20%ポイントを超えて、小児科、心臓外科、脳神経外科は第 2 四半期でも 10%ポイントを超えて、眼科は約 10%ポイント減少している。

全体の傾向と異なる状況にあるのは、以下

の診療科である。外科の第 2 四半期は、約 0～1%ポイントのマイナスであり、ほとんど減少していない状況である。歯科については、第 2 四半期でプラスに転じている。

D．考察

単純平均に関して述べるが、入院・外来の合計値の半年ベースの状況を見ると、収入計に関しては、受診抑制などの影響により、小児科、心臓外科、皮膚科、耳鼻咽喉科は 2 割以上の減少となっていた。収支比率に関しては、ほぼ同じ診療科で 22~25%ポイントの減少となっていた。

入院・外来の合計値の四半期ベースの状況を見ると、収入計に関しては、小児科、皮膚科は、第 1 四半期も第 2 四半期も 2 割を超える減少となっていた。一方、心臓外科、耳鼻咽喉科、眼科、歯科は第 1 四半期では、2~3 割の減少であったが、第 2 四半期で最大でも 1 割程度の減少にまで回復していた。

収支比率に関しては、ほぼ同じ診療科で同様の減少傾向を示していた。ただし、外科に関しては他の診療科と異なっており、収入計は第 1 四半期も第 2 四半期も同様に約 8%程度の減少であったが、収支比率は第 1 四半期で約 13%ポイントの減少だったのに第 2 四半期で約 7%ポイントの減少になっていた。

入院の半年ベースの状況を見ると、収入計に関しては、小児科、心臓外科、皮膚科、耳鼻咽喉科は 2.5~3 割程度の減少となっていた。収支比率に関しては、ほぼ同じ診療科で 25~30%ポイントの減少となっていた。

入院の四半期ベースの状況を見ると、収入計に関しては、小児科、皮膚科は、第 1 四半期も第 2 四半期も、2.5~3 割の減少にとどまっており、半年を通して手術などの抑制が生じた結果と推測された。心臓外科、耳鼻咽喉科は、第 1 四半期で 3 割を超える減少であったが、第 2 四半期で 1.5 割ほどの減少に回復している。眼科と歯科は、第 1 四半期で 3 割前後の減少であったが、第 2 四半期では 1 割以下の減少に大きく回復していた。これらの入院の減少が回復してきた診療科については、第 1 四半期では手術の延期が行われたものの、第 2 四半期で手術を実施するようになった結果と推測された。

収支比率に関しては、ほとんどの診療科で同様の推移を示していた。ただし、外科に関しては他の診療科と異なっており、収入計は第 1 四半期も第 2 四半期も同様に約 8%程度の減少であったが、収支比率は第 1 四半期で約 12%ポイントの減少であったのに、第 2 四半期で約 8%ポイントの減少になっていた。これは、第 1 四半期ではコロナ対策のために何らかの追加支出が多額に生じており、第 2 四半期ではこれらの追加支出が行われなかったと推測される。

外来の半年ベースの状況を見ると、収入計に関しては、皮膚科、耳鼻咽喉科は 2 割程度の減少となっていた。収支比率に関しては、これらの診療科以外に、小児科、心臓外科、脳神経外科で、26~44%ポイントの減少となっていた。

外来の四半期ベースの状況を見ると、いずれの診療科でも、第 1 四半期から第 2 四半期にかけて、収入計の減少が回復しており、2 割程度の減少があった小児科、脳神経外科、整形外科でも、1 割以下の減少まで回復していた。しかし、第 1 四半期で 3 割近くまで減少した皮膚科と耳鼻咽喉科は、第 2 四半期でも 1 割以上の減少が続いており、受診控えが長引いている状況が伺えた。

収支比率に関しては、いずれの診療科でも同様の推移を示していた。ただし、収入計と比べて減少の幅が大きく、第 1 四半期で 30~60%ポイント台の減少が多くの診療科

でみられた。

入院、外来の収入計を半年ベースで比較してみると、入院では小児科、心臓外科、皮膚科、耳鼻咽喉科は、2 割以上の減少となっているのに対して、外来では皮膚科、耳鼻咽喉科が 2 割程度の減少となっており、小児科、心臓外科の大幅な減少は入院に限られていた。眼科、歯科についても、入院の減少が、それぞれ約 19%、約 17%と比較的大きいが、外来では約 6%、約 4%と小さく、外来の方が影響は小さかった。

循環器科については、入院では減少が約 1%とあまり無かったものの、外来では約 13%の減少となっていた。同じような傾向は、脳神経外科でもあり、入院では約 7%の減少となっているが、外来では約 17%の減少となっていた。

E．結論

入院では、小児科、皮膚科は、第 1 四半期も第 2 四半期も、2.5~3 割の収入計の減少にとどまっており、半年を通して手術などの抑制が生じた結果と推測された。

心臓外科、耳鼻咽喉科、眼科、歯科は第 2 四半期には入院の減少が回復してきており、第 1 四半期では手術の延期が行われたものの、第 2 四半期で手術を実施するようになった結果と推測された。

外来では、いずれの診療科でも、第 1 四半期から第 2 四半期にかけて、収入計の減少が回復しており、2 割程度の減少があった小児科、脳神経外科、整形外科でも、1 割以下の減少まで回復していた。しかし、第 1 四半期で 3 割近くまで減少した皮膚科と耳鼻咽喉科は、第 2 四半期でも 1 割以上の減少が続いており、受診控えが長引いている状況が示唆された。

収入計を半年ベースで比較してみると、入院では小児科、心臓外科、皮膚科、耳鼻咽喉科は、2 割以上の減少となっているのに対して、外来では皮膚科、耳鼻咽喉科が 2 割程度の減少となっており、小児科、心臓外科の大幅な減少は入院に限られていた。眼科、歯科についても、入院の減少が、それぞれ約 19%、約 17%と比較的大きいが、外来では約 6%、約 4%と小さく、外来の方が影響は小さかった。

循環器科については、入院では減少が約 1%とあまり無かったものの、外来では約 13%の減少となっていた。同じような傾向は、脳神経外科でもあり、入院では約 7%の減少となっているが、外来では約 17%の減少となっていた。

また、単純平均の収支比率により損益状況をみると、入院・外来合計ベースでは、小児科、皮膚科は 30%ポイントを超えて、耳鼻咽喉科は 20%ポイントを超えて、歯科は約 20%ポイントと大きな減少となっているが、泌尿器科は約 7%ポイントの減少と相対的に小さい。第 1 四半期では、皮膚科、耳鼻咽喉科、歯科は 40%ポイントを超えて、小児科は約 40%ポイントと大きく減少し、小児科、皮膚科は第 2 四半期でも 20%ポイントを超える減少のままである。

入院では、小児科、皮膚科、歯科が 20%ポイントを超えて大きく減少している。第 1 四半期では、小児科、耳鼻咽喉科、歯科が 30%ポイントを超えて、心臓外科、皮膚科が 20%ポイントを超えて大きく減少し、小児科、皮膚科は第 2 四半期でも 20%ポイントを超える減少のままである。

一方、外来では、皮膚科は約 44%ポイント、小児科、心臓外科、耳鼻咽喉科は 30%ポイントを超えて、脳神経外科は約 26%ポイントと、大きく減少しているが、外科の減少は約 8%ポイントと相対的に小さい。第 1 四

半期では、小児科、心臓外科、皮膚科が 60%ポイントを超えて、耳鼻咽喉科が約 53%ポイント、歯科が約 41%ポイント、脳神経外科、整形外科が 30%ポイントを超えて大きく減少している。第 2 四半期でも、皮膚科、耳鼻咽喉科は 20%ポイントを超えて、小児科、心臓外科、脳神経外科は 10%ポイントを超えて、眼科は約 10%ポイント減少している。こうしたなか、第 2 四半期には、歯科は前期比プラスに転じ、外科も 0.3%ポイント未満のマイナスまで回復している点は、他の診療科と傾向が異なる。

本研究における以上の分析において、収入は対前年減収率、収支比率は対前年%ポイント差であることを踏まえると、収入の減少率に対して収支比率(利益率)の減少率は極めて大きいといえる。このことは、固定費の存在ゆえに収入の減少率に見合った費用の抑制が困難なためであり、理論的には自明なことであるが、診療科別の収入と損益(収支)の変化状況を分析した結果、実際に収入の減少の程度と損益(収支)の減少の程度には相違が見られることが判明した。このことは、収入ベースの診療科別分析だけでなく、損益ベースの診療科別分析を実施することの重要性を強く示唆している。

ただし今回の研究では、診療科別の総費用に占める固定費割合を把握して、収入の増減率に対する損益の増減率を診療科別に分析することまではできていない。固定費割合が高く収入の減少に伴う利益（損失）の減少（拡大）が著しい診療科と、変動費割合が高く収入の減少に伴う利益（損失）の減少（拡大）が大きくはない診療科を明らかにして、収入の増減による損益増減への影響が強い診療科と弱い診療科を把握することは、今後の研究課題である。

F．健康危険情報

該当無し

G．研究発表

該当無し

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当無し

【参考資料】

表 1　共通の診療科区分

内科	循環器科	小児科	外科	心臓外科
脳神経外科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科
産婦人科	眼科	歯科	精神科	その他

表 2　【入院・外来の合計値】4~9 月の収入計の変化率

入院・外来の合計値、4~9月、収入計の変化率

診療科	加重平均						単純平均					
	全病院		実績有り病院		実績無し病院		全病院		実績有り病院		実績無し病院	
	変化率	n	変化率	n	変化率	n	変化率	n	変化率	n	変化率	n
内科	▲7.25%	29	▲6.83%	22	▲10.70%	7	▲10.35%	29	▲10.73%	22	▲9.18%	7
循環器科	▲9.62%	20	▲9.07%	16	▲13.12%	4	▲8.47%	19	▲6.84%	15	▲14.60%	4
小児科	▲21.05%	15	▲22.38%	12	▲11.70%	3	▲23.07%	13	▲24.07%	10	▲19.73%	3
外科	▲6.21%	29	▲6.12%	22	▲6.53%	7	▲7.86%	29	▲7.48%	22	▲9.06%	7
心臓外科	▲15.95%	15	▲16.96%	13	-	2	▲22.86%	12	▲24.20%	11	-	1
脳神経外科	▲5.08%	16	▲5.14%	14	-	2	▲10.85%	16	▲11.12%	14	-	2
整形外科	▲12.82%	27	▲13.21%	22	▲9.79%	5	▲12.27%	27	▲13.23%	22	▲8.05%	5
皮膚科	▲20.97%	17	▲21.02%	16	-	1	▲25.72%	13	▲25.72%	13	-	0
泌尿器科	▲1.43%	25	2.72%	20	▲20.33%	5	4.97%	24	8.68%	19	▲9.12%	5
耳鼻咽喉科	▲20.92%	19	▲18.67%	16	▲36.90%	3	▲24.62%	16	▲21.02%	13	▲40.19%	3
産婦人科	▲5.29%	18	▲4.90%	15	▲6.86%	3	▲8.68%	17	▲8.86%	14	▲7.87%	3
眼科	▲14.10%	25	▲14.57%	20	▲10.13%	5	▲14.59%	21	▲16.77%	17	▲5.35%	4
歯科	▲11.11%	11	▲8.48%	9	-	2	▲11.02%	11	▲8.63%	9	-	2
病院全体	▲9.01%	29	▲8.73%	22	▲10.80%	7	▲11.13%	29	▲11.26%	22	▲10.72%	7

表 3　【入院・外来の合計値】4~9 月の収支比率の前年差

入院・外来の合計値、4~9月、収支比率の前年差

診療科	加重平均						単純平均					
	全病院		実績有り病院		実績無し病院		全病院		実績有り病院		実績無し病院	
	前年差	n	前年差	n	前年差	n	前年差	n	前年差	n	前年差	n
内科	▲8.15%pt	29	▲7.82%pt	22	▲10.88%pt	7	▲12.49%pt	29	▲12.79%pt	22	▲11.56%pt	7
循環器科	▲4.57%pt	20	▲4.25%pt	16	▲6.95%pt	4	▲9.03%pt	19	▲9.29%pt	15	▲8.04%pt	4
小児科	▲26.02%pt	15	▲26.87%pt	12	▲20.24%pt	3	▲31.05%pt	13	▲27.20%pt	10	▲43.90%pt	3
外科	▲8.95%pt	29	▲8.88%pt	22	▲9.17%pt	7	▲10.15%pt	29	▲9.31%pt	22	▲12.79%pt	7
心臓外科	▲10.75%pt	15	▲11.23%pt	13	-	2	▲18.95%pt	13	▲20.02%pt	12	-	1
脳神経外科	▲6.85%pt	16	▲6.89%pt	14	-	2	▲14.88%pt	16	▲14.98%pt	14	-	2
整形外科	▲8.95%pt	27	▲8.67%pt	22	▲10.98%pt	5	▲10.81%pt	27	▲10.90%pt	22	▲10.42%pt	5
皮膚科	▲20.07%pt	17	▲19.94%pt	16	-	1	▲32.63%pt	14	▲32.63%pt	14	-	0
泌尿器科	▲5.19%pt	25	▲3.12%pt	20	▲15.65%pt	5	▲7.16%pt	24	▲6.80%pt	19	▲8.52%pt	5
耳鼻咽喉科	▲18.88%pt	19	▲18.08%pt	16	▲26.18%pt	3	▲27.88%pt	17	▲24.86%pt	14	▲40.94%pt	3
産婦人科	▲5.35%pt	18	▲4.95%pt	15	▲6.81%pt	3	▲12.05%pt	17	▲11.16%pt	14	▲16.23%pt	3
眼科	▲11.37%pt	25	▲10.51%pt	20	▲17.76%pt	5	▲15.93%pt	22	▲16.06%pt	18	▲15.36%pt	4
歯科	▲16.05%pt	11	▲11.24%pt	9	-	2	▲19.79%pt	11	▲13.48%pt	9	-	2
病院全体	▲8.89%pt	29	▲8.65%pt	22	▲10.48%pt	7	▲11.42%pt	29	▲11.51%pt	22	▲11.14%pt	7

表４　【入院・外来の合計値】第１四半期と第２四半期における収入計の変化率

入院・外来の合計値、4~6月(Q1)/7~9月(Q2)、収入計の変化率

診療科	時期	加重平均						単純平均					
		全病院		実績有り病院		実績無し病院		全病院		実績有り病院		実績無し病院	
		変化率	n	変化率	n	変化率	n	変化率	n	変化率	n	変化率	n
内科	Q1	▲9.69%	29	▲9.32%	22	▲12.70%	7	▲13.97%	29	▲13.97%	22	▲13.99%	7
	Q2	▲4.91%	29	▲4.43%	22	▲8.78%	7	▲6.67%	29	▲7.44%	22	▲4.25%	7
循環器科	Q1	▲16.27%	20	▲16.13%	16	▲17.06%	4	▲12.70%	19	▲11.08%	15	▲18.81%	4
	Q2	▲2.78%	20	▲2.00%	16	▲8.33%	4	▲3.59%	19	▲2.20%	15	▲8.81%	4
小児科	Q1	▲24.71%	15	▲25.54%	12	▲19.08%	3	▲24.72%	13	▲25.60%	10	▲21.80%	3
	Q2	▲17.73%	15	▲19.53%	12	▲4.49%	3	▲21.10%	13	▲22.27%	10	▲17.18%	3
外科	Q1	▲6.64%	29	▲6.69%	22	▲6.47%	7	▲8.15%	29	▲8.34%	22	▲7.53%	7
	Q2	▲5.80%	29	▲5.57%	22	▲6.58%	7	▲7.31%	29	▲6.33%	22	▲10.38%	7
心臓外科	Q1	▲18.86%	15	▲20.95%	13	-	2	▲26.16%	12	▲28.27%	11	-	1
	Q2	▲12.90%	15	▲12.82%	13	-	2	▲15.10%	12	▲15.23%	11	-	1
脳神経外科	Q1	▲8.34%	16	▲7.86%	14	-	2	▲13.75%	16	▲12.27%	14	-	2
	Q2	▲1.97%	16	▲2.57%	14	-	2	▲5.54%	16	▲9.03%	14	-	2
整形外科	Q1	▲17.16%	27	▲17.01%	22	▲18.17%	5	▲17.62%	27	▲17.66%	22	▲17.46%	5
	Q2	▲8.66%	27	▲9.62%	22	▲0.84%	5	▲6.50%	27	▲8.55%	22	2.52%	5
皮膚科	Q1	▲26.04%	17	▲26.07%	16	-	1	▲29.02%	13	▲29.02%	13	-	0
	Q2	▲16.20%	17	▲16.26%	16	-	1	▲21.13%	13	▲21.13%	13	-	0
泌尿器科	Q1	▲0.73%	25	2.15%	20	▲14.24%	5	2.54%	24	6.82%	19	▲13.74%	5
	Q2	▲2.08%	25	3.26%	20	▲25.66%	5	8.27%	24	11.03%	19	▲2.22%	5
耳鼻咽喉科	Q1	▲32.38%	19	▲29.06%	16	▲55.60%	3	▲34.89%	16	▲30.90%	13	▲52.22%	3
	Q2	▲10.46%	19	▲9.20%	16	▲19.48%	3	▲14.53%	16	▲11.25%	13	▲28.77%	3
産婦人科	Q1	▲10.77%	18	▲9.69%	15	▲14.94%	3	▲11.66%	17	▲11.53%	14	▲12.30%	3
	Q2	0.07%	18	▲0.33%	15	1.81%	3	▲5.68%	17	▲6.21%	14	▲3.21%	3
眼科	Q1	▲20.53%	25	▲22.15%	20	▲5.16%	5	▲19.90%	21	▲23.75%	17	▲3.55%	4
	Q2	▲8.04%	25	▲7.26%	20	▲14.05%	5	▲8.00%	21	▲9.47%	17	▲1.77%	4
歯科	Q1	▲25.42%	11	▲23.96%	9	-	2	▲23.77%	11	▲22.63%	9	-	2
	Q2	2.70%	11	6.52%	9	-	2	1.95%	11	5.63%	9	-	2
病院全体	Q1	▲12.56%	29	▲12.31%	22	▲14.15%	7	▲14.33%	29	▲14.45%	22	▲13.96%	7
	Q2	▲5.61%	29	▲5.32%	22	▲7.49%	7	▲8.00%	29	▲8.16%	22	▲7.48%	7

表５　【入院・外来の合計値】第１四半期と第２四半期における収支比率の前年差

入院・外来の合計値、4~6月(Q1)/7~9月(Q2)、収支比率の前年差

診療科	時期	加重平均						単純平均					
		全病院		実績有り病院		実績無し病院		全病院		実績有り病院		実績無し病院	
		前年差	n	前年差	n	前年差	n	前年差	n	前年差	n	前年差	n
内科	Q1	▲13.64%pt	29	▲13.58%pt	22	▲14.13%pt	7	▲19.21%pt	29	▲19.49%pt	22	▲18.34%pt	7
	Q2	▲3.15%pt	29	▲2.57%pt	22	▲7.95%pt	7	▲6.59%pt	29	▲6.88%pt	22	▲5.66%pt	7
循環器科	Q1	▲8.37%pt	20	▲8.42%pt	16	▲8.08%pt	4	▲11.50%pt	19	▲11.46%pt	15	▲11.66%pt	4
	Q2	▲1.42%pt	20	▲0.98%pt	16	▲5.40%pt	4	▲7.12%pt	19	▲8.04%pt	15	▲3.67%pt	4
小児科	Q1	▲36.25%pt	15	▲36.48%pt	12	▲35.05%pt	3	▲39.09%pt	13	▲35.27%pt	10	▲51.86%pt	3
	Q2	▲17.70%pt	15	▲19.10%pt	12	▲7.34%pt	3	▲24.75%pt	13	▲21.33%pt	10	▲36.15%pt	3
外科	Q1	▲13.02%pt	29	▲13.15%pt	22	▲12.57%pt	7	▲13.42%pt	29	▲12.98%pt	22	▲14.80%pt	7
	Q2	▲5.14%pt	29	▲4.92%pt	22	▲5.89%pt	7	▲7.24%pt	29	▲6.09%pt	22	▲10.85%pt	7
心臓外科	Q1	▲15.78%pt	15	▲18.51%pt	13	-	2	▲25.10%pt	13	▲27.57%pt	12	-	1
	Q2	▲5.86%pt	15	▲4.32%pt	13	-	2	▲13.31%pt	13	▲12.87%pt	12	-	1
脳神経外科	Q1	▲11.21%pt	16	▲10.90%pt	14	-	2	▲18.62%pt	16	▲17.04%pt	14	-	2
	Q2	▲3.04%pt	16	▲3.41%pt	14	-	2	▲10.07%pt	16	▲13.08%pt	14	-	2
整形外科	Q1	▲13.89%pt	27	▲13.17%pt	22	▲19.09%pt	5	▲17.64%pt	27	▲17.50%pt	22	▲18.30%pt	5
	Q2	▲4.77%pt	27	▲4.89%pt	22	▲3.32%pt	5	▲5.72%pt	27	▲6.33%pt	22	▲3.06%pt	5
皮膚科	Q1	▲27.99%pt	17	▲27.78%pt	16	-	1	▲40.80%pt	14	▲40.80%pt	14	-	0
	Q2	▲14.00%pt	17	▲13.94%pt	16	-	1	▲27.53%pt	14	▲27.53%pt	14	-	0
泌尿器科	Q1	▲8.33%pt	25	▲6.43%pt	20	▲17.58%pt	5	▲13.09%pt	24	▲11.89%pt	19	▲17.64%pt	5
	Q2	▲2.22%pt	25	▲0.08%pt	20	▲13.61%pt	5	▲1.92%pt	24	▲2.69%pt	19	0.97%pt	5
耳鼻咽喉科	Q1	▲34.34%pt	19	▲31.12%pt	16	▲68.63%pt	3	▲46.23%pt	17	▲39.85%pt	14	▲73.88%pt	3
	Q2	▲9.02%pt	19	▲9.61%pt	16	▲4.59%pt	3	▲16.93%pt	17	▲14.78%pt	14	▲26.23%pt	3
産婦人科	Q1	▲12.39%pt	18	▲11.25%pt	15	▲16.38%pt	3	▲21.62%pt	17	▲20.18%pt	14	▲28.36%pt	3
	Q2	0.83%pt	18	0.47%pt	15	2.22%pt	3	▲4.20%pt	17	▲3.80%pt	14	▲6.08%pt	3
眼科	Q1	▲17.17%pt	25	▲17.12%pt	20	▲14.06%pt	5	▲21.58%pt	22	▲23.79%pt	18	▲12.20%pt	4
	Q2	▲7.11%pt	25	▲5.62%pt	20	▲20.06%pt	5	▲11.42%pt	22	▲11.16%pt	18	▲12.54%pt	4
歯科	Q1	▲36.98%pt	11	▲31.27%pt	9	-	2	▲42.23%pt	11	▲36.31%pt	9	-	2
	Q2	▲2.16%pt	11	1.79%pt	9	-	2	▲6.07%pt	11	▲0.15%pt	9	-	2
病院全体	Q1	▲14.43%pt	29	▲14.31%pt	22	▲15.17%pt	7	▲16.32%pt	29	▲16.53%pt	22	▲15.69%pt	7
	Q2	▲4.08%pt	29	▲3.77%pt	22	▲6.21%pt	7	▲7.27%pt	29	▲7.30%pt	22	▲7.17%pt	7

表 6　【入院】4~9 月の収入計の変化率

入院、4~9月、収入計の変化率

診療科	加重平均						単純平均					
	全病院		実績有り病院		実績無し病院		全病院		実績有り病院		実績無し病院	
	変化率	n	変化率	n	変化率	n	変化率	n	変化率	n	変化率	n
内科	▲7.52%	28	▲6.83%	21	▲13.43%	7	▲10.20%	28	▲10.78%	21	▲8.44%	7
循環器科	▲10.00%	19	▲9.67%	15	▲12.18%	4	▲1.27%	18	2.76%	14	▲15.37%	4
小児科	▲24.35%	13	▲26.60%	10	▲9.92%	3	▲28.23%	11	▲33.39%	9	-	2
外科	▲7.48%	28	▲7.39%	21	▲7.77%	7	▲8.68%	28	▲8.07%	21	▲10.50%	7
心臓外科	▲17.09%	12	▲18.29%	11	-	1	▲26.13%	11	▲27.89%	10	-	1
脳神経外科	▲3.17%	14	▲3.26%	13	-	1	▲7.39%	14	▲8.02%	13	-	1
整形外科	▲12.45%	26	▲12.82%	21	▲9.64%	5	▲11.33%	26	▲12.04%	21	▲8.38%	5
皮膚科	▲26.84%	14	▲26.84%	14	-	0	▲29.94%	11	▲29.94%	11	-	0
泌尿器科	7.87%	22	14.74%	17	▲28.95%	5	4.95%	21	11.37%	17	▲22.34%	4
耳鼻咽喉科	▲21.62%	16	▲18.44%	13	▲44.42%	3	▲25.42%	15	▲18.69%	12	▲52.33%	3
産婦人科	▲4.99%	16	▲4.32%	14	-	2	▲10.22%	16	▲10.51%	14	-	2
眼科	▲20.57%	19	▲21.86%	15	▲11.01%	4	▲18.80%	19	▲25.43%	15	6.09%	4
歯科	▲16.96%	10	▲13.80%	8	-	2	▲16.69%	10	▲14.10%	8	-	2
病院全体	▲9.06%	29	▲8.65%	22	▲11.89%	7	▲11.12%	29	▲10.99%	22	▲11.53%	7

表 7　【入院】4~9 月の収支比率の前年差

入院、4~9月、収支比率の前年差

診療科	加重平均						単純平均					
	全病院		実績有り病院		実績無し病院		全病院		実績有り病院		実績無し病院	
	前年差	n	前年差	n	前年差	n	前年差	n	前年差	n	前年差	n
内科	▲7.11%pt	28	▲6.55%pt	21	▲12.27%pt	7	▲11.06%pt	28	▲10.84%pt	21	▲11.73%pt	7
循環器科	▲3.22%pt	19	▲2.98%pt	15	▲5.10%pt	4	▲9.48%pt	18	▲10.03%pt	14	▲7.56%pt	4
小児科	▲25.11%pt	13	▲26.71%pt	10	▲18.29%pt	3	▲27.76%pt	11	▲30.13%pt	9	-	2
外科	▲9.14%pt	28	▲9.21%pt	21	▲8.91%pt	7	▲10.31%pt	28	▲9.40%pt	21	▲13.02%pt	7
心臓外科	▲9.04%pt	12	▲9.61%pt	11	-	1	▲16.80%pt	11	▲17.95%pt	10	-	1
脳神経外科	▲5.12%pt	14	▲5.19%pt	13	-	1	▲9.03%pt	14	▲9.62%pt	13	-	1
整形外科	▲7.94%pt	26	▲7.58%pt	21	▲10.47%pt	5	▲9.86%pt	26	▲9.77%pt	21	▲10.25%pt	5
皮膚科	▲13.44%pt	14	▲13.44%pt	14	-	0	▲26.39%pt	13	▲26.39%pt	13	-	0
泌尿器科	▲1.09%pt	22	1.64%pt	17	▲26.49%pt	5	▲8.05%pt	21	▲4.21%pt	17	▲24.37%pt	4
耳鼻咽喉科	▲15.70%pt	16	▲14.84%pt	13	▲27.70%pt	3	▲18.53%pt	15	▲16.62%pt	12	▲26.20%pt	3
産婦人科	▲3.62%pt	16	▲3.15%pt	14	-	2	▲8.00%pt	16	▲8.11%pt	14	-	2
眼科	▲7.78%pt	19	▲6.44%pt	15	▲14.22%pt	4	▲11.95%pt	19	▲11.96%pt	15	▲11.93%pt	4
歯科	▲14.27%pt	10	▲7.16%pt	8	-	2	▲20.78%pt	10	▲11.74%pt	8	-	2
病院全体	▲7.24%pt	29	▲6.81%pt	22	▲10.38%pt	7	▲9.70%pt	29	▲9.33%pt	22	▲10.89%pt	7

表８　【入院】第１四半期と第２四半期における収入計の変化率

入院、4~6月(Q1)/7~9月(Q2)、収入計の変化率

診療科	時期	加重平均						単純平均					
		全病院		実績有り病院		実績無し病院		全病院		実績有り病院		実績無し病院	
		変化率	n	変化率	n	変化率	n	変化率	n	変化率	n	変化率	n
内科	Q1	▲9.68%	28	▲9.01%	21	▲15.41%	7	▲14.38%	28	▲14.12%	21	▲15.16%	7
	Q2	▲5.44%	28	▲4.72%	21	▲11.52%	7	▲5.83%	28	▲7.29%	21	▲1.44%	7
循環器科	Q1	▲17.01%	19	▲17.29%	15	▲15.37%	4	▲3.39%	18	0.80%	14	▲18.05%	4
	Q2	▲2.79%	19	▲2.07%	15	▲8.14%	4	1.90%	18	5.51%	14	▲10.73%	4
小児科	Q1	▲28.26%	13	▲30.23%	10	▲16.29%	3	▲26.75%	11	▲31.03%	9	-	2
	Q2	▲20.68%	13	▲23.25%	10	▲3.39%	3	▲26.82%	11	▲32.39%	9	-	2
外科	Q1	▲6.39%	28	▲6.58%	21	▲5.78%	7	▲7.84%	28	▲8.18%	21	▲6.83%	7
	Q2	▲8.49%	28	▲8.14%	21	▲9.63%	7	▲8.89%	28	▲7.28%	21	▲13.69%	7
心臓外科	Q1	▲20.32%	12	▲22.87%	11	-	1	▲31.73%	11	▲34.62%	10	-	1
	Q2	▲13.76%	12	▲13.60%	11	-	1	▲15.98%	11	▲16.09%	10	-	1
脳神経外科	Q1	▲5.85%	14	▲5.31%	13	-	1	▲8.62%	14	▲7.48%	13	-	1
	Q2	▲0.63%	14	▲1.35%	13	-	1	▲3.06%	14	▲7.54%	13	-	1
整形外科	Q1	▲16.80%	26	▲16.54%	21	▲18.65%	5	▲16.82%	26	▲16.43%	21	▲18.46%	5
	Q2	▲8.28%	26	▲9.32%	21	0.12%	5	▲5.23%	26	▲7.29%	21	3.38%	5
皮膚科	Q1	▲31.45%	13	▲31.45%	13	-	0	▲30.94%	11	▲30.94%	11	-	0
	Q2	▲23.50%	13	▲23.50%	13	-	0	▲25.06%	11	▲25.06%	11	-	0
泌尿器科	Q1	12.26%	22	17.77%	17	▲18.98%	5	8.77%	21	15.76%	17	▲20.90%	4
	Q2	4.08%	22	12.07%	17	▲36.88%	5	4.15%	21	9.18%	17	▲17.25%	4
耳鼻咽喉科	Q1	▲34.18%	16	▲29.53%	13	▲66.96%	3	▲36.05%	15	▲29.09%	12	▲63.91%	3
	Q2	▲10.51%	16	▲8.65%	13	▲23.96%	3	▲15.39%	15	▲8.90%	12	▲41.37%	3
産婦人科	Q1	▲10.93%	16	▲9.19%	14	-	2	▲10.58%	16	▲9.90%	14	-	2
	Q2	0.82%	16	0.31%	14	-	2	▲9.45%	16	▲10.74%	14	-	2
眼科	Q1	▲30.39%	19	▲33.60%	15	▲1.76%	4	▲27.68%	19	▲35.26%	15	0.75%	4
	Q2	▲11.54%	19	▲10.64%	15	▲17.28%	4	▲6.91%	19	▲14.90%	15	23.04%	4
歯科	Q1	▲33.47%	10	▲32.05%	8	-	2	▲32.18%	10	▲31.41%	8	-	2
	Q2	▲1.37%	10	3.77%	8	-	2	▲0.44%	10	4.32%	8	-	2
病院全体	Q1	▲11.98%	29	▲11.56%	22	▲14.76%	7	▲13.54%	29	▲13.59%	22	▲13.41%	7
	Q2	▲6.25%	29	▲5.86%	22	▲8.98%	7	▲8.69%	29	▲8.45%	22	▲9.46%	7

表９　【入院】第１四半期と第２四半期における収支比率の前年差

入院、4~6月(Q1)/7~9月(Q2)、収支比率の前年差

診療科	時期	加重平均						単純平均					
		全病院		実績有り病院		実績無し病院		全病院		実績有り病院		実績無し病院	
		前年差	n	前年差	n	前年差	n	前年差	n	前年差	n	前年差	n
内科	Q1	▲11.99%pt	28	▲11.71%pt	21	▲14.73%pt	7	▲17.72%pt	28	▲16.80%pt	21	▲20.50%pt	7
	Q2	▲2.64%pt	28	▲1.82%pt	21	▲10.10%pt	7	▲5.28%pt	28	▲5.67%pt	21	▲4.11%pt	7
循環器科	Q1	▲6.31%pt	19	▲6.54%pt	15	▲4.94%pt	4	▲10.62%pt	18	▲10.90%pt	14	▲9.62%pt	4
	Q2	▲0.73%pt	19	▲0.31%pt	15	▲4.95%pt	4	▲8.92%pt	18	▲10.16%pt	14	▲4.59%pt	4
小児科	Q1	▲37.39%pt	13	▲39.18%pt	10	▲31.02%pt	3	▲35.34%pt	11	▲37.31%pt	9	-	2
	Q2	▲14.85%pt	13	▲16.48%pt	10	▲6.18%pt	3	▲27.87%pt	11	▲32.14%pt	9	-	2
外科	Q1	▲12.39%pt	28	▲12.65%pt	21	▲11.59%pt	7	▲12.40%pt	28	▲11.94%pt	21	▲13.79%pt	7
	Q2	▲6.01%pt	28	▲5.94%pt	21	▲6.24%pt	7	▲8.43%pt	28	▲7.20%pt	21	▲12.12%pt	7
心臓外科	Q1	▲13.06%pt	12	▲16.14%pt	11	-	1	▲25.82%pt	11	▲28.83%pt	10	-	1
	Q2	▲5.27%pt	12	▲3.71%pt	11	-	1	▲12.36%pt	11	▲11.91%pt	10	-	1
脳神経外科	Q1	▲9.25%pt	14	▲9.01%pt	13	-	1	▲12.95%pt	14	▲12.65%pt	13	-	1
	Q2	▲1.45%pt	14	▲1.85%pt	13	-	1	▲3.49%pt	14	▲6.54%pt	13	-	1
整形外科	Q1	▲12.32%pt	26	▲11.62%pt	21	▲17.42%pt	5	▲15.49%pt	26	▲15.24%pt	21	▲16.55%pt	5
	Q2	▲4.21%pt	26	▲4.18%pt	21	▲3.86%pt	5	▲5.73%pt	26	▲6.06%pt	21	▲4.31%pt	5
皮膚科	Q1	▲15.75%pt	13	▲15.75%pt	13	-	0	▲25.03%pt	13	▲25.03%pt	13	-	0
	Q2	▲11.85%pt	13	▲11.85%pt	13	-	0	▲26.17%pt	13	▲26.17%pt	13	-	0
泌尿器科	Q1	▲2.68%pt	22	▲0.10%pt	17	▲25.65%pt	5	▲11.17%pt	21	▲7.75%pt	17	▲25.73%pt	4
	Q2	0.66%pt	22	3.42%pt	17	▲26.25%pt	5	▲4.98%pt	21	▲1.10%pt	17	▲21.48%pt	4
耳鼻咽喉科	Q1	▲30.04%pt	16	▲26.39%pt	13	▲89.04%pt	3	▲37.28%pt	15	▲30.46%pt	12	▲64.59%pt	3
	Q2	▲7.24%pt	16	▲7.82%pt	13	▲3.97%pt	3	▲9.33%pt	15	▲8.55%pt	12	▲12.44%pt	3
産婦人科	Q1	▲10.01%pt	16	▲8.64%pt	14	-	2	▲13.64%pt	16	▲13.50%pt	14	-	2
	Q2	1.97%pt	16	1.58%pt	14	-	2	▲5.27%pt	16	▲5.97%pt	14	-	2
眼科	Q1	▲12.96%pt	19	▲12.90%pt	15	▲2.42%pt	4	▲16.57%pt	19	▲21.52%pt	15	1.97%pt	4
	Q2	▲4.91%pt	19	▲2.64%pt	15	▲21.19%pt	4	▲7.36%pt	19	▲6.67%pt	15	▲9.94%pt	4
歯科	Q1	▲32.47%pt	10	▲23.78%pt	8	-	2	▲37.82%pt	10	▲27.32%pt	8	-	2
	Q2	▲3.04%pt	10	3.33%pt	8	-	2	▲9.37%pt	10	▲0.94%pt	8	-	2
病院全体	Q1	▲11.55%pt	29	▲11.22%pt	22	▲13.86%pt	7	▲13.17%pt	29	▲12.97%pt	22	▲13.78%pt	7
	Q2	▲3.41%pt	29	▲2.92%pt	22	▲7.08%pt	7	▲6.77%pt	29	▲6.30%pt	22	▲8.26%pt	7

表 10　【外来】4~9 月の収入計の変化率

外来、4~9月、収入計の変化率

診療科	加重平均						単純平均					
	全病院		実績有り病院		実績無し病院		全病院		実績有り病院		実績無し病院	
	変化率	n	変化率	n	変化率	n	変化率	n	変化率	n	変化率	n
内科	▲6.71%	28	▲6.67%	21	▲7.03%	7	▲9.64%	28	▲10.42%	21	▲7.28%	7
循環器科	▲1.03%	19	3.05%	15	▲16.32%	4	▲13.30%	18	▲12.98%	14	▲14.42%	4
小児科	▲15.08%	14	▲15.01%	11	▲15.45%	3	▲12.10%	11	▲9.06%	8	▲20.22%	3
外科	▲2.43%	28	▲2.48%	21	▲2.25%	7	▲4.23%	28	▲4.97%	21	▲2.01%	7
心臓外科	▲6.12%	14	▲6.93%	12	-	2	▲5.59%	10	▲6.03%	9	-	1
脳神経外科	▲13.92%	15	▲13.77%	13	-	2	▲16.55%	14	▲16.09%	12	-	2
整形外科	▲14.78%	26	▲15.50%	21	▲10.56%	5	▲13.91%	24	▲14.59%	20	▲10.52%	4
皮膚科	▲15.91%	17	▲15.97%	16	-	1	▲21.87%	13	▲21.87%	13	-	0
泌尿器科	▲10.25%	24	▲8.97%	19	▲13.82%	5	▲5.27%	23	▲4.26%	18	▲8.91%	5
耳鼻咽喉科	▲19.03%	19	▲19.27%	16	▲17.32%	3	▲20.94%	16	▲20.92%	13	▲21.02%	3
産婦人科	▲6.42%	18	▲7.01%	15	▲3.07%	3	▲6.13%	16	▲6.64%	13	▲3.93%	3
眼科	▲7.64%	24	▲7.51%	19	▲8.79%	5	▲6.08%	20	▲6.09%	16	▲6.04%	4
歯科	▲5.17%	11	▲3.55%	9	-	2	▲3.98%	11	▲1.73%	9	-	2
病院全体	▲8.87%	28	▲8.93%	21	▲8.54%	7	▲11.12%	28	▲11.77%	21	▲9.18%	7

表 11　【外来】4~9 月の収支比率の前年差

外来、4~9月、収支比率の前年差

診療科	加重平均						単純平均					
	全病院		実績有り病院		実績無し病院		全病院		実績有り病院		実績無し病院	
	前年差	n	前年差	n	前年差	n	前年差	n	前年差	n	前年差	n
内科	▲9.29%pt	28	▲9.37%pt	21	▲8.76%pt	7	▲15.83%pt	28	▲17.00%pt	21	▲12.31%pt	7
循環器科	▲9.03%pt	19	▲7.48%pt	15	▲13.79%pt	4	▲12.85%pt	18	▲12.28%pt	14	▲14.86%pt	4
小児科	▲22.48%pt	14	▲21.61%pt	11	▲27.60%pt	3	▲30.73%pt	11	▲25.64%pt	8	▲44.29%pt	3
外科	▲7.18%pt	28	▲6.75%pt	21	▲8.82%pt	7	▲8.38%pt	28	▲8.49%pt	21	▲8.05%pt	7
心臓外科	▲19.66%pt	14	▲20.18%pt	12	-	2	▲39.69%pt	12	▲41.93%pt	11	-	1
脳神経外科	▲24.14%pt	15	▲23.64%pt	13	-	2	▲26.07%pt	14	▲22.73%pt	12	-	2
整形外科	▲16.19%pt	26	▲16.80%pt	21	▲14.01%pt	5	▲15.96%pt	26	▲16.57%pt	21	▲12.94%pt	5
皮膚科	▲22.15%pt	17	▲21.96%pt	16	-	1	▲44.01%pt	14	▲44.01%pt	14	-	0
泌尿器科	▲11.88%pt	24	▲12.46%pt	19	▲9.00%pt	5	▲12.36%pt	23	▲13.81%pt	18	▲7.17%pt	5
耳鼻咽喉科	▲25.92%pt	19	▲27.38%pt	16	▲16.52%pt	3	▲35.14%pt	17	▲35.08%pt	14	▲35.38%pt	3
産婦人科	▲12.94%pt	18	▲13.25%pt	15	▲12.18%pt	3	▲12.69%pt	16	▲11.42%pt	13	▲18.19%pt	3
眼科	▲12.03%pt	24	▲10.85%pt	19	▲22.58%pt	5	▲14.54%pt	21	▲13.44%pt	17	▲18.92%pt	4
歯科	▲15.03%pt	11	▲12.48%pt	9	-	2	▲15.92%pt	11	▲11.17%pt	9	-	2
病院全体	▲12.80%pt	28	▲13.25%pt	21	▲10.21%pt	7	▲17.30%pt	28	▲18.81%pt	21	▲12.78%pt	7

表 12　【外来】第 1 四半期と第 2 四半期における収入計の変化率

外来、4~6月(Q1)/7~9月(Q2)、収入計の変化率

診療科	時期	加重平均						単純平均					
		全病院		実績有り病院		実績無し病院		全病院		実績有り病院		実績無し病院	
		変化率	n	変化率	n	変化率	n	変化率	n	変化率	n	変化率	n
内科	Q1	▲9.98%	28	▲10.12%	21	▲9.05%	7	▲13.44%	28	▲13.99%	21	▲11.79%	7
	Q2	▲3.58%	28	▲3.36%	21	▲5.11%	7	▲5.89%	28	▲6.86%	21	▲2.98%	7
循環器科	Q1	▲7.59%	19	▲3.22%	15	▲23.29%	4	▲20.02%	18	▲19.31%	14	▲22.49%	4
	Q2	5.50%	19	9.19%	15	▲8.92%	4	▲6.49%	18	▲6.60%	14	▲6.10%	4
小児科	Q1	▲19.70%	14	▲18.67%	11	▲25.48%	3	▲17.53%	11	▲14.17%	8	▲26.47%	3
	Q2	▲11.15%	14	▲11.91%	11	▲6.66%	3	▲7.07%	11	▲4.15%	8	▲14.87%	3
外科	Q1	▲7.70%	28	▲7.42%	21	▲8.70%	7	▲8.31%	28	▲8.65%	21	▲7.27%	7
	Q2	2.82%	28	2.36%	21	4.62%	7	0.36%	28	▲0.93%	21	4.24%	7
心臓外科	Q1	▲14.94%	14	▲16.64%	12	-	2	▲11.49%	10	▲12.08%	9	-	1
	Q2	3.22%	14	3.36%	12	-	2	1.48%	10	1.29%	9	-	1
脳神経外科	Q1	▲19.12%	15	▲18.84%	13	-	2	▲23.02%	14	▲22.10%	12	-	2
	Q2	▲8.93%	15	▲8.92%	13	-	2	▲9.83%	14	▲9.91%	12	-	2
整形外科	Q1	▲21.01%	26	▲21.94%	21	▲15.67%	5	▲20.40%	24	▲21.28%	20	▲16.03%	4
	Q2	▲8.70%	26	▲9.24%	21	▲5.48%	5	▲7.52%	24	▲8.00%	20	▲5.15%	4
皮膚科	Q1	▲22.21%	17	▲22.25%	16	-	1	▲28.05%	13	▲28.05%	13	-	0
	Q2	▲9.73%	17	▲9.83%	16	-	1	▲14.80%	13	▲14.80%	13	-	0
泌尿器科	Q1	▲12.82%	24	▲13.47%	19	▲10.96%	5	▲10.57%	23	▲10.87%	18	▲9.52%	5
	Q2	▲7.73%	24	▲4.48%	19	▲16.51%	5	0.26%	23	2.60%	18	▲8.16%	5
耳鼻咽喉科	Q1	▲27.79%	19	▲27.85%	16	▲27.39%	3	▲29.78%	16	▲29.35%	13	▲31.61%	3
	Q2	▲10.33%	19	▲10.77%	16	▲7.29%	3	▲11.73%	16	▲12.08%	13	▲10.22%	3
産婦人科	Q1	▲10.14%	18	▲11.48%	15	▲2.48%	3	▲8.51%	16	▲9.59%	13	▲3.85%	3
	Q2	▲2.80%	18	▲2.65%	15	▲3.63%	3	▲3.63%	16	▲3.52%	13	▲4.10%	3
眼科	Q1	▲10.50%	24	▲10.63%	19	▲9.31%	5	▲7.93%	20	▲8.23%	16	▲6.71%	4
	Q2	▲4.87%	24	▲4.49%	19	▲8.28%	5	▲3.99%	20	▲3.69%	16	▲5.17%	4
歯科	Q1	▲17.42%	11	▲16.51%	9	-	2	▲14.96%	11	▲13.67%	9	-	2
	Q2	6.91%	11	9.08%	9	-	2	7.11%	11	10.18%	9	-	2
病院全体	Q1	▲13.98%	28	▲14.18%	21	▲12.83%	7	▲16.06%	28	▲16.43%	21	▲14.96%	7
	Q2	▲4.09%	28	▲4.01%	21	▲4.53%	7	▲6.41%	28	▲7.33%	21	▲3.64%	7

表 13　【外来】第 1 四半期と第 2 四半期における収支比率の前年差

外来、4~6月(Q1)/7~9月(Q2)、収支比率の前年差

診療科	時期	加重平均						単純平均					
		全病院		実績有り病院		実績無し病院		全病院		実績有り病院		実績無し病院	
		前年差	n	前年差	n	前年差	n	前年差	n	前年差	n	前年差	n
内科	Q1	▲16.21%pt	28	▲16.68%pt	21	▲13.08%pt	7	▲24.32%pt	28	▲26.47%pt	21	▲17.87%pt	7
	Q2	▲3.13%pt	28	▲2.87%pt	21	▲4.83%pt	7	▲8.73%pt	28	▲9.07%pt	21	▲7.71%pt	7
循環器科	Q1	▲16.39%pt	19	▲14.46%pt	15	▲21.74%pt	4	▲22.19%pt	18	▲21.24%pt	14	▲25.52%pt	4
	Q2	▲3.01%pt	19	▲1.85%pt	15	▲6.80%pt	4	▲6.05%pt	18	▲5.95%pt	14	▲6.39%pt	4
小児科	Q1	▲33.06%pt	14	▲30.26%pt	11	▲51.93%pt	3	▲61.26%pt	11	▲61.08%pt	8	▲61.75%pt	3
	Q2	▲14.77%pt	14	▲15.22%pt	11	▲11.05%pt	3	▲16.20%pt	11	▲10.50%pt	8	▲31.40%pt	3
外科	Q1	▲15.34%pt	28	▲15.03%pt	21	▲16.41%pt	7	▲17.25%pt	28	▲17.70%pt	21	▲15.92%pt	7
	Q2	0.18%pt	28	0.62%pt	21	▲1.55%pt	7	▲0.27%pt	28	▲0.09%pt	21	▲0.79%pt	7
心臓外科	Q1	▲50.82%pt	14	▲55.03%pt	12	-	2	▲67.00%pt	12	▲70.64%pt	11	-	1
	Q2	8.68%pt	14	11.13%pt	12	-	2	▲14.89%pt	12	▲15.97%pt	11	-	1
脳神経外科	Q1	▲32.95%pt	15	▲32.11%pt	13	-	2	▲39.83%pt	14	▲34.56%pt	12	-	2
	Q2	▲17.00%pt	15	▲16.78%pt	13	-	2	▲16.11%pt	14	▲14.62%pt	12	-	2
整形外科	Q1	▲28.20%pt	26	▲28.93%pt	21	▲26.23%pt	5	▲32.31%pt	26	▲34.03%pt	21	▲23.75%pt	5
	Q2	▲6.36%pt	26	▲7.09%pt	21	▲2.85%pt	5	▲4.36%pt	26	▲4.47%pt	21	▲3.77%pt	5
皮膚科	Q1	▲34.70%pt	17	▲34.38%pt	16	-	1	▲67.50%pt	14	▲67.50%pt	14	-	0
	Q2	▲11.73%pt	17	▲11.67%pt	16	-	1	▲28.64%pt	14	▲28.64%pt	14	-	0
泌尿器科	Q1	▲18.43%pt	24	▲20.68%pt	19	▲12.83%pt	5	▲23.38%pt	23	▲26.60%pt	18	▲11.81%pt	5
	Q2	▲5.80%pt	24	▲5.08%pt	19	▲5.31%pt	5	▲3.35%pt	23	▲3.47%pt	18	▲2.92%pt	5
耳鼻咽喉科	Q1	▲41.09%pt	19	▲42.00%pt	16	▲35.02%pt	3	▲52.86%pt	17	▲52.22%pt	14	▲55.64%pt	3
	Q2	▲13.98%pt	19	▲15.90%pt	16	▲1.79%pt	3	▲21.55%pt	17	▲21.92%pt	14	▲19.92%pt	3
産婦人科	Q1	▲21.05%pt	18	▲22.21%pt	15	▲17.15%pt	3	▲23.22%pt	16	▲22.04%pt	13	▲28.33%pt	3
	Q2	▲5.70%pt	18	▲5.38%pt	15	▲7.32%pt	3	▲3.99%pt	16	▲2.66%pt	13	▲9.78%pt	3
眼科	Q1	▲17.52%pt	24	▲16.04%pt	19	▲30.26%pt	5	▲20.62%pt	21	▲19.29%pt	17	▲25.96%pt	4
	Q2	▲7.16%pt	24	▲6.35%pt	19	▲15.09%pt	5	▲9.64%pt	21	▲9.02%pt	17	▲12.09%pt	4
歯科	Q1	▲36.27%pt	11	▲32.62%pt	9	-	2	▲40.84%pt	11	▲36.28%pt	9	-	2
	Q2	0.19%pt	11	1.27%pt	9	-	2	0.91%pt	11	4.47%pt	9	-	2
病院全体	Q1	▲22.06%pt	28	▲22.86%pt	21	▲17.64%pt	7	▲27.84%pt	28	▲30.11%pt	21	▲21.03%pt	7
	Q2	▲5.25%pt	28	▲5.46%pt	21	▲4.03%pt	7	▲9.31%pt	28	▲10.33%pt	21	▲6.26%pt	7